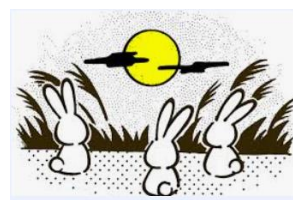


第2学年だより NO.7

令和3年9月9日
第2学年主任



朝晩の涼しさを感じる季節となりました。夏休みが終了してすぐに定期テストがあったこともあり、慌ただしいスタートとなりましたが、お子さまの生活の様子はいかがでしょう。新型コロナウイルス感染症の状況もまだまだ不安定ですが、教室内の常時換気、こまめな手指の消毒、三密の回避など、これまで以上に配慮しながら、学校生活を送らせていきたいと思います。

☆職業体験学習の延期について☆

9月21日実施予定の職業体験学習について、先日お知らせしましたとおり、令和4年3月15日（火）に延期とさせていただきます。半年後の状況によっては、計画を中止、変更する場合がありますので、ご了承下さい。

また、進路に関する学習として、10月に市内の事業所から講話を聞く活動を予定しています。事業所ごとに教室を分け、少人数グループの移動方式で、密を避けた形での実施を計画しております。ご家庭でも、働くことについて話題に出し、親子で意見交流の機会を作っていただければと思います。

☆読書感想文作品紹介☆

大田原市読書感想文コンクールで、遠藤野依さんの作品が優秀賞に選ばれ、那須地区読書感想文コンクールに出品されることになりました。全文を紹介いたします。

「はかないから美しい」

遠藤野依

あなたは「ポスト」と聞いて、どのようなものを思い浮かべるだろうか。四角く一本足で立っている赤いポストを思い浮かべる人もいれば、昭和にあったようなレトロな円柱形の赤いポストを思い浮かべる人もいるだろう。今一番ポストが活躍する時期は正月くらいだろう。現在の文字言語による連絡手段の主流は、インターネットやメールである。ポストを利用する回数が減るのは仕方のないことかもしれない。だが、こんな時代だからこそ手書きの手紙を書いて、自分の気持ちを相手に知ってもらいたい、自分の悩みを聞いてもらいたいと思うときがある。

夕暮れ時にだけ現れる郵便ポスト「夕焼けポスト」の管理人である「私」は、届いた便りに返事を書く。手紙を送ってくる人物は、歴史上の人物から一般の人、さらに物語の中の人物まで多岐にわたる。小さな出来事から法を犯してしまったことまで、様々な悩みが手紙につづられている。「私」は、一生懸命励ましの手紙を書くが、心の中には虚しさが残る。それは、事故で亡くした妻と娘に何もしてあげられなかったことだった。

私は、「私」とある少年が「観自在」について話す場面が印象に残っている。観自在とは、いろいろな角度でものを観ること。理屈の上では最強だが人の生死に関わることはどうにもならないと「私」は言った。しかし少年は、観自在で観れば人は死で終わるようなものではなく、もっと大きなものであると言う。美しい夕焼けはすぐに消えていくはかないもののように見える。しかし、角度を変えてみれば夕焼けという現象は場所を変えながら永遠にあり、対して一人の人間はたった数十年でこの世を去るのだ。少年は言う。

「美しさの正体ははかなさだもの」

私は、身内や親しい人が亡くなるような経験をまだしたことがない。ただ、私の家族の中で一番早く亡くなるのは、おそらくペットの猫たちだろうと思っている。平均寿命のことを考えると、あと六年ほど。私が二十歳を迎える頃にはいなくなってしまうのかもしれない。考えたくもないことだ。しかし、これを「観自在」で考えてみる。猫と私が一緒にいられる時間は限られている。あと六年、私はこのはかない命とどう向き合うべきか。家猫なのだが、本当は外の自由な世界をのびのびと味わわせてやったほうがいいのではないかとも思う。できるだけたくさん遊んで、少しでも猫た

ちが楽しいと思ってくれるような飼い方をしたい。いつかいなくなるなら、一緒に過ごす時間を楽しいものにしたい。外の世界で暮らすことと、家で人に飼われることの、どちらにも自由や楽しみを見出して生きることは可能だと思う。

「私」は、「角度を変えて見る」ことで、答えは決してひとつではないということがわかったのではないと思う。「私」は生まれつき右手の小指がない「はるかちゃん」からの手紙を受け取る。実は「私」の亡くなった娘も、手に欠損があったのだ。娘が生きていたとき、どう言ってやればよかったのかを考えながら「私」は返事を書いていたのではないだろうか。手に欠損があることで、他の人とは見た目が違っているかもしれない。だが、欠損があっても、他の人と同じようにできることがある。それは、困っている人に手を差し伸べて助けることだ。それが、「私」が娘に言いたかったことかもしれない。

「私」の心の傷が完全に癒えることはないように思う。自分の傷が治っていないのに、変わっていないのに、なぜ「私」は手紙への返事を書き続けるのだろう。答えは「ない」とも「ある」とも言えない。角度を変えて見れば、無限大に出てくる。全て、正しいのか間違っているのかもわからない。数学の答えのように、ひとつの答えにたどり着くようなものではないのだと思う。

人には様々な感情がある。いつも楽しく明るい感情が続いてほしいと思うが、人は悩むと、ひとつの方向からしか物事が見られなくなってしまうことがある。全てが悲しく見えるときもあれば、全てが辛く思えるときもあるだろう。そんなとき、角度を変えて見ることで、自分で自分を救うひとつの方法になる。角度を変えて見れば、その感情にも「限り」がある。例えば今、悲しいと感じていても、それは一時的なものだ。人生の何千、何万分の1の時間に過ぎない。限りがあるということは悲しく、ときに優しいものだと思う。

限りがあるから美しいということ、この本は伝えようとしている。ここには「美しい」以外の言葉も当てはまるだろう。限りのあるたくさんの命。私もはかない命のひとつだ。きっと私の命が尽きるとき「人生あっという間だった」と思うだろう。このはかない一人の人間としての自分自身や、他の生命を大切にしたい。

「美しさの正体ははかなさだもの」

※「夕焼けポスト」ドリアン助川 ポプラ社

